▶地域活動支援センター「紀州の手」では、「室内ゲーム」（写真はルーレット）「気になるニュース」「健康教室」などのレクリエーションを担当している

紀州・和歌山のアイデア・ウーマン

杉谷 裕子

和歌山市

「面白いと思ったら、まず自分でやってみる」、好奇心旺盛な杉谷裕子さんのモットーだ。現在は、和歌山県聴覚障害者協会の職員で、地域活動支援センター「紀州の手」の支援員、全通研和歌山支部の運営委員(健康問題対策部)として多忙な日々を送っている。杉谷さんが手話に出会ったのは40歳のとき。20歳から34年間は保育士だった。その保育士時代に、たまたま子供たちに「手話の歌」を教える機会があった。子供たちに正しい知識を教えたいと思い、市の手話講座に通いはじめると次第に手話にのめり込んでいったという。しばらく保育士と手話通訳士の二足の草鞋を続けていたが、手話通訳士一本に絞ろうと54歳の時に保育所を早期退職した。その後、現職の岩出市役所の手話通訳者として勤務し、地域活動支援センター「紀州の手」立ち上げ時に誘いを受け参加した。全通研和歌山支部では、健康問題対策部の運営委員として数々の活動を企画立案し健康運動の旗振り役としても大活躍している。

笑顔があふれた紀州の手「お楽しみ会」

12月12日は、和歌山市紀三井寺の南コミュニティセンターで、紀州の手「お楽しみ会」が行われた。プレゼント抽選会あり、お弁当あり、支援員による寸劇ありの工夫を凝らした内容に、参加者の皆さんの明るい笑顔が印象的だった。このお楽しみ会の過去5年間の動画も放映され、懐かしい顔が映るたびに指を差して笑みがこぼれる。この日最大の呼び物は、杉谷さんはじめ支援員の有志によるユーモラスな寸劇「猿の生き肝」。芸達者ぞろいで、手話によるアドリブも満載で、会場は大いに盛り上がった。

▶写真❶ 紀州の手「お楽しみ会」
▶写真❷ お弁当タイム。必要な人には支援員がサポート。
▶写真❸ プレゼント抽選会
▶写真❹ 芸達者な支援員たちによる寸劇

15名の運営委員が リモート環境で活発に論議

12月12日の午後からは、和歌山市木広町の「ふれあいセンター」で和歌山支部・運営委員会が開かれた。この日の討議内容は、毎年2月に開催してきた恒例の「大学習会」を、コロナ禍でどのように安心・安全に開催するかがメインテーマ。遠隔地からのリモート参加による運営委員を交え、活発な意見が飛び交った。最後は、健康問題対策部の杉谷さんが推奨する令和2年版のオリジナル体操を全員で行う。この体操は、伝統ある運動療法の自彊術（じきょうじゅつ）の動作を参考に取り入れたもので、手話通訳者のストレス解消とリフレッシュのために、和歌山支部では令和2年から普及に力を入れている。

▶写真❶「大学習会」について協議する和歌山支部・運営委員会
▶写真❷ 遠隔地の委員はリモートで参加
▶写真❸ リモート参加を含む全員で、オリジナル体操でリフレッシュ
▶写真❹ この日、会場に参加した和歌山支部・運営委員の皆さん

これぞ至福の時！ 同級生の足つぼマッサージ

疲れやストレスが溜まったとき、杉谷さんが駆け込む大切な場所がある。足つぼマッサージの山崎愛子さんの治療院だ。杉谷さんとは中学時代から48年来の付き合いで、「紀州の手」が誕生してから「足つぼマッサージ」を利用者さんにしてと頼まれ、今もボランティアで行っている。山崎さんに杉谷さん評を聞いてみた。「とにかく努力家、勉強熱心でユーモアもあり、一緒にいて楽しい人です。中3のマラソン大会で転んで手の指を骨折しながら完走、入賞した時は、その不屈の精神に呆れてしまいました」。

▶写真❶ いつ来ても至福の時という杉谷さん

▶写真❷ 中学時代からの親友、山崎愛子さん

仲間とのお喋りと音楽が私の活力源！

保育士時代の先輩、同僚と楽しいランチ会。今日は、杉谷さんお気に入り、ミニパン食べ放題のレストラン「えんどろーる」へ。思い出話に花が咲く。食後は公園「四季の郷」で散歩。さらに夕方は、中国の弓奏弦楽器「二胡」の練習へ。病気で長く休職したとき女子十二楽坊の演奏の音色に魅入られて二胡を習い始めたという杉谷さん。久しぶりに先生との共演が実現し、笑みがこぼれた。

写真／文　佐藤 篤

▶写真❶ 本格料理とミニパン食べ放題で人気の「えんどろーる」にて

▶写真❷ 久しぶりの二胡の演奏にやや緊張気味